



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：ウラン濃縮停止に関する要人の発言 (5月30日付現地報道)

1. ラリジャニ SNSC 書記の発言 (IRNA)

(1) 5月30日、マドリードへ出発前、記者団の質問に対して。

我々は、先方の懸念が正しいものならば、前提条件なしに、それを払拭する用意がある。ウラン濃縮の停止は受入れ不可能であり、解決策とはいえない。過去の経験とアプローチは同停止が一切受入れ不可能であることを示している。

ソラナ EU 上級代表がアンカラでの会談をフォローアップしていることを期待する。アンカラでの協議では前向きな点が提起されており、もしそれがフォローアップされていけば、国際社会においてそれを発展させる良いきっかけとなるだろう。

(2) 30日、マドリード到着後、記者団に対して。

ウラン濃縮停止は、イランの核問題の正しい解決策ではなく、ブリックス前大量破壊兵器委員会委員長も述べている通り、もしイランが原子力活動を停止する予定ならば、交渉すべき問題は最早存在しない。交渉条件としての停止も否定する。これは原則に反する提案である。

(停止が交渉の結論となりうるかとの問いに対し) 交渉結果は予見できない。我々は平和的核計画を他国が懸念を抱かないような方向で進めたい。但し我々は、他国が懸念を抱かないように平和的核計画を持たない、ということは望んでいない。

(イランの限定的ウラン濃縮に関する最近のエルバラダイ提案について) エルバラダイがイランの平和的核計画の進展につき述べたことは、現実的な発言であった。我々は交渉における様々な案の表明に決して躊躇しなかった。彼等は、交渉は予め定められた結果をもたらさなければならぬと考えているが、それは誤りである。

2. モッタキ外相の発言 (30日、第1回イスラム諸国首都検察庁会合にて、IRNA)

イランは37年間 NPT メンバーであり、核エネルギーの平和的利用を決意している。今日最新の核兵器を実験する国々は、他国の平和的核エネルギーの利用を剥奪する地位にはない。核問題には「協調と衝突」の二つの選択肢があり、我々は協調を選好する。現在もイランの核問題担当者は、国の意思を実現するべく、アンカラの次にマドリードにおいて P5+1 代表との会談を行うために調整している。